

回覧

地域再生 協議会だより

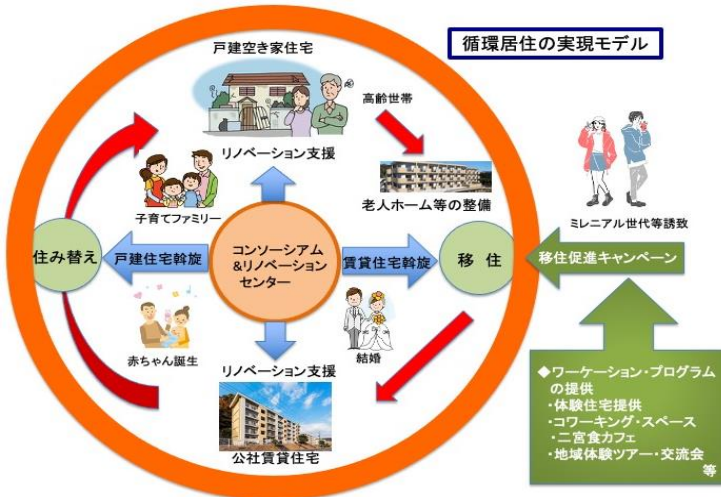
百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

空き家対策 町外から呼び込み

国交省に R2 年度事業申請

再生協議会はリモートワークへの関心の高まりなどを受け、町外移住者の受け入れに力点を置いた空き家対策に取り組む。2年前から続けてきた講座開催や啓発活動を一歩進めて、移住希望者向けのリモートワーク、体験居住スペースなどを整備し、不動産事業者なども加えた支援体制づくりを立案。このほど国土交通省に、2020年度事業の助成申請を行った。8月中には採否が決まる。

申請事業名は、一色小学校区地域空き家等循環再生事業（全国共通課題の解決部門）。



内容は、移住者向けワーケーションプログラムの提供と、移住・循環居住支援体制づくりの2本立て。ワーケーションとはワークとバケーションを組み合わせた造語。自宅でのリモートワークを想定し、県住宅供給公社の空き家を使ったショートステイハウス、会議ソフト付きスペース、地域食カフェの整備・提供などがテーマになる。

また支援体制づくりは昨年度から着手しており、実施主体の協議会を中心に、二宮町、県公社、専門家、地元金融機関、不動産事業者などが随時話し合う場を設ける。本年度の事業は、新型コロナウイルス対策の動向を見ながら、順次進める。
(裏面*に続く)

そろい始動まず「友情の山ヤマユリ」から

再生協議会は6月半ばからの町有施設の利用制限緩和を受け、26日(金)に拡大部会長会議を開く。新型コロナウイルス問題が浮上して以降、事実上活動を停止しており、公式の会合はほぼ3か月ぶり。同日の会合ではコロナウイルス警戒下での部会活動、協議会の第2期事業終了(令和3年度)後の方向などについて話し合う。

事業活動の場である町有施設の休館などが緩められたとは言え、利活用にあたっては多くの制約がある。マスク、手洗い、換気はもちろん、各施設とも部屋ごとの利用人数が

絞られる。ウイルス汚染の第2波、第3波も懸念されている。このため各事業部会とも再開のタイミングやそのスタイルについては関係者と協議しつつ、慎重に判断していくことになる。



こうした中で、数年来続いてきた「友情の山のヤマユリの一般公開」については、一色小の授業が7月から正常化することもあり、7月23日(木)からの4連休中の開催が決まった。24日(金)と26日(日)にはヤマユリの増殖・管理、山野草に詳しい竹内龍雄さん、山本絢子さん、和田美乃さんを囲む質問・説明会を行う。

4日間とも地域の関係者が3密対策などに配慮した案内・誘導にあたるほか、会場では増刷したばかりのカラー冊子「友情の山の山野草たち」の販売を予定している。

二宮町や西湘南の植生、草木を図鑑風にまとめた「友情の山の山野草たち」の第2版が出来上がった。初版と同じく、500部印刷した。定価500円。数か所の訂正を反映させ、3頁の索引を追加している。この地区の自然がほぼそのまま残る一色小・友情の山での植生調査をもとにした全頁カラー仕様で、調査や編集、制作はすべて地元人材が担当した。協議会事務所、百合が丘児童館などで販売する。

(＊表面からの続き)

協議会が、「空き家を出さない循環居住」事業の対象を移住希望者へと広げるのは、コロナウイルスへの対応や働き方改革の推進に伴い、リモートワークへの流れが強まるとの見通しから。過密居住から住環境、家賃水準などの条件が整った近郊に移りたいとする動きはしばらく続く。県公社が推進中の二宮団地(百合が丘)のリフレッシュ事業では、この3年間に町外から約200人が移り住んだ実績がある。受け入れ側の取り組み次第では、二宮町内の戸建て住宅全般にも影響が及ぶと見ている。

のぞいてみよう!!

わが街の話題・イベント

にのっち(にのみや地域情報) <https://nino-community-info.com/>



再生協議会 <https://saisei.nino-community-info.com>



「お知らせ」

再生協議会とITクラブが運営する上記「にのっち(にのみや地域情報)」か「再生協議会」の「まちかどブログ」にアクセスすると、やまゆり合唱団が歌う「上を向いて歩こう」をYOUTUBEで楽しめます。ぜひ試してみてください。「まちかどブログ」への投稿(写真付)も歓迎します。